



依存症ってなあに？



カジノ法案が、衆議院で可決され、観光地としての地域の活性化や大きな経済効果が期待されています。しかし、カジノには、賛否両論あり、ギャンブル依存症や治安の悪化も懸念されています。

仕事や人間関係など、日々のストレスを自分なりに解消することは大切ですが、もし発散のつもりがエスカレートしてしまったら…。

平成 26 年の厚労省の調査では、ギャンブル依存症の疑いのある人は、国内で 536 万人、成人の 4.8%と諸外国と比べても突出しています。特に高齢者が、退職後ギャンブルにハマり、老後の蓄えをつぎ込み、家族関係を崩壊させてしまうケースも後を絶ちません。

依存症とは、WHOが提唱した概念で、ギャンブル依存症の他にアルコール・ニコチン・薬物依存症などがあり、最初はストレス発散や気分転換のつもりが、だんだん量や頻度が増え、脳内のドーパミン(快感を感じる物質)の分泌が活発になり、それを求めて行動を繰り返してしまいます。こうなると自分をコントロールできなくなり、心身の健康を損なったり、禁断症状から暴言・暴力、犯罪等につながることもあります。



患者本人のストレスや不安を取り除くことも大切ですが、依存症になってしまうと、本人や家族の力だけでは、解決できないケースも非常に多いため、専門家や医師に相談することが必要です。

本人や家族が孤立しないよう周囲の人が、サポートすることで、本人の生きがいを取り戻すことも重要です。

ギャンブルに限らず、人間が楽しいと思えることには、何でも依存症に繋がる恐れがあり、誰もが依存症になる可能性を持っています。依存症は、心の病気であるという認識を高め、自分らしく生きるためにその危険性を知り、自らを見つめ、意思をコントロールすることが、依存症を防ぐことにつながるのではないのでしょうか。